

アルジェリア政治・経済月例報告
(2018年6月)

平成30年7月
在アルジェリア日本国大使館

1 内政

- 5月30日、ウルドゥ・アッベスFLN事務総長が、政治局員15名(定数19名)を交代させたことに党内から反発があり、6月に予定されていた同党中央委員会会合が2度にわたり延期される。
- 6月5日、ブーテフリカ大統領は閣議を主宰し、2018年補正予算法案等を承認。社会整備及び凍結されているインフラ・プロジェクト実行のために5000億ディナールの支出が盛り込まれる一方、事前に報道されていたパスポートや運転免許証等の行政手続き書類の値上げ案については、大統領の指示により全て取り下げられた。25日、国民議会において2018年補正予算法案が可決。当国で組立てが行われた自動車への免税措置を廃止する法案第6条は削除された。ラウイア財相は自動車組み立て事業に関して新たな措置を検討する旨発言した。
- 7日、ベンハビレス赤新月社代表は、4月末にモロッコの海岸から渡航を試み地中海に投げ出されたアフリカ不法移民34名のうち救助された19名を対象としたオラン県の同社中央食堂におけるイフタール参加後、記者会見にて、アフリカ難民の取り扱いに関する対アルジェリア・キャンペーンは、事実無根で悪評を高めるためのものであると述べた。
- 11～12日付報道によると、共同集合住居及び公共賃貸住居等に係るアルジェリア独立以来、最大の5万戸(内、首都では千戸)の閣僚数名が分担しての引渡し式が行われ(10日、ザアラーン公共事業・運輸相がアンナバ県、11日、ゼマリー労働・雇用・社会保障相がマスカラ県等)及び330億ディナールの住居修繕の計画が発表され、ラマダン終了間際と重なる本件住宅プロジェクトの結実に対し市民はブーテフリカ大統領を称賛した。
- 21日、ウーヤヒヤ国民民主連合(RND)党首(兼首相)は全国党大会にて、ブーテフリカ大統領の任務継続を称賛し、同大統領による新たな任期(5選目)への立候補への期待を表明。
- 26日、ブーテフリカ大統領はアブデルガニ・ハメル国家警察庁長官を解任し、ムスタファ・エル・ハビリ市民防衛庁長官を後継者に任命する2つの大統領令に署名した。27日付報道は、今回の突然のハメル警察庁長官の更迭はオラン県での大量コカイン押収事件について、同長官が初期捜査には越権行為等があったとしつつ、汚職と闘わんとする者は自分自身がクリーンでなければな

らない等と司法当局に対する非難とも政府関係者への脅迫ともとれる発言を行ったことが背景にあるのではないかとした。

2 外交

- 6月2日付報道等によると、メサヘル外相は5月29日からマリを訪問し、同日ケイタ大統領及びマイガ首相を表敬し、30日には和平合意フォローアップ委員会の委員長として同委員会会合を主宰し、同日、グテーレス国連事務総長とのバイ会談を行い、マリ、リビア及び西サハラ情勢について協議した。同事務総長は、当地域における安定と治安の回復のためアルジェリアが果たす重要な役割を称賛した。
- 12日、フランスのデザニョー・リビア担当特使が来訪し、メサヘル外相と先月29日のパリにおけるリビアに関する国際会議のフォローアップを行った。
- 14日付アルジェリア国営通信は、パレスチナ人の保護を求める国連総会決議採択に関し、ロシアのスプートニック通信を引用し、13日、アラブ・グループ議長としてアルジェリアがトルコと共に提出した、イスラエルによるガザでの暴力等を非難する決議案の採択は、国連総会におけるアルジェリアの勝利であると称賛したと伝えた。
- 19日、メサヘル外相は和平仲介に関する第16回「オスロ・フォーラム」にマリ及びリビア・グループのメンバーとして出席し、サラメ・リビア担当国連特使らとバイ会談を行う。
- 23日、メサヘル外相は、関係国・地域歴訪の最初の訪問国として当国に来訪したケーラー西サハラ担当国連特使と会談。
- 28日、メサヘル外相は当地に来訪したサリバン米 국무副長官と第5回米・アルジェリア治安・テロ対策対話を行った。

3 治安

- 11日付報道によると、アルジェリア県ベルイズダート地区でラマダン期間中、断食終了前にジョギングをしていた若い女性が見知らぬ男に「なぜ、ラマダン中の時間に走っているのか。女は台所で食事の準備をしている」と咎められ殴打を浴びたので憲兵隊に届け出をすると憲兵にも非難されたという事案が発生した。これを受け9日、市民多数が被害者に連携し抗議のため18時からアルジェ市中心部の臨海興業地レ・サブレットで集団ジョギングを実施した。
- 17日付報道によるとアルジェリア国家警察庁は2013年から指紋自動認証システムを導入して以来人身危害犯罪、財産侵害犯罪等合計8,121件を処理し犯人を特定したと発表した。今後も犯罪予防を軸に犯罪取締りを実施していくと述べた。

- 21日、アルジェリア国家警察庁はが本年ラマダン中の犯罪発生件数について発表したところ、昨年のラマダン期間と比較し、犯罪件数は約5%減少した。主な内訳は殺人、傷害等の人身危害犯罪発生件数は昨年比6.6%減少し、窃盗等の財産侵害犯罪発生件数は3%減少した。
- 20日付報道によると5月30日、オラン港に寄港したリベリア商船（ブラジル発ス ペイン経由でオラン県入り）にコカイン701キロが発見された事件で政府要人関係者や 検察関係者等が逮捕取り調べされていると報じた。これにより政界上層部を揺るがす可能性がある。アルジェリア当局は本件のは背景に大規模な外国の麻薬組織が絡んでいると見ており、スペイン等関係各国に捜査共助を求めている。

4 経済

- 5月28～6月8日、スイスのジュネーブで第107回 ILO 総会が開催。基準適用委員会でアルジェリアが ILO 条約を遵守しない25か国のリストに分類される。反発したアルジェリア側は ILO の上級委員会の調査代表団の受け入れ拒否を表明した。
- 3日、官報にアルジェリア中央銀行の月別報告が掲載され、昨年より行われている中央銀行から国庫への直接融資に関し、2017年末までの時点で2兆1850億ディナール、本年1～3月の間に1兆4000億ディナール（累計3兆5850億ディナール）実施されたことが公表。なお、当国政府は昨年、2017年の必要融資額を5700億ディナール、本年は1兆8150億ディナールとする試算を発表していた。
- 4日、Stream System ブランドを展開するボマレ社が、同社が販売する携帯電話に NEC の顔認証技術を導入するための協定に署名。署名式にはアルジェリア経営者フォーラム（FCE）及び在アルジェリア日本大使館からも代表者が出席した。
- 5日、世界銀行は2018年のアルジェリアの経済成長率を3.5%とする予測を発表。1月発表の3.6%から若干の下方修正。なお、2019年は2%へと成長が鈍化するとも予測。
- 5日、米経済誌フォーブスは「知っておくべきアルジェリアの5人の億万長者」という特集記事を同誌サイトに掲載。イサッド・レブラブ・セビタル会長を筆頭に、アブデルマジッド・ケラル（ビオフィーム社創業者）、アリ・ハダッド（ETRHB ハダッド・グループ CEO）、モハメド・ライド・ベナモール（ベナモール・グループ会長）、アブドゥラハマン・ベンメラディ（コンドール・グループ会長）、ジラリ・メフリ（メフリ・グループ創業者）の各氏の業績を紹介。
- 6日、国連貿易開発会議（UNCTAD）は海外直接投資（FDI）に関する報告を発

表。2017年の対アルジェリア FDI は前年比26%減の12億ドル。同報告ではサムスン及び華為がスマートフォン生産工場を開設する等、投資の多様化を評価。また、現在政府が作業を進めている炭化水素法の改正が FDI を増加させる好材料となり得るとも指摘した。

●11日、ソナトラック社は、イリジ県ティン・フィエ・タバコルト（TFT）のガス田開発及び運営に関し、トタル（仏）及びレプソル（西）と25年の新たな契約を締結。3億2400万ドルのプロジェクトで、出資比率はソネルガス51%、トタル26.4%、レプソル22.6%。

●14日、ソナトラック社は西のガス・ナトゥラル・フェノサ社と天然ガス供給に関する契約を2030年まで更新。米、露及びカタール等の進出を受け、昨今の欧州天然ガス市場の情勢変化により、アルジェリア側が期待した20年～25年の長期契約には至らず。

●14日、ソネルガス社及びIMetalグループは、韓国BHI社と排熱回収及び熱交換ボイラー製造の合弁企業を設立することで合意。出資比率はソネルガス30%、IMetal35%、BHI35%。

●18日、ラウイア財務相は、IMFが先般終了した4条協議の報告書の中で、昨年より当国が行っている中央銀行から国庫へ直接融資に懸念を示し、対外借入れ等を推奨していることに対し、金融政策は主権に属する事柄であると反論し、いわゆる「非慣例的」な資金調達を当面継続し、対外借入れは行わない旨発言した。

●20日、国民議会における2018年補正予算法の審議の中で、ラウイア財務相は本年1月～4月の税込（石油関連税及び通常税）が去年同期比で18%増の2兆1550億ディナールであったと発表した。

●24日、国家統計局の発表によると、本年5月までの12か月間の消費物価の上昇率は4.4%。月別では昨年より1.8%上昇。

●25～29日、ギトゥーニ・エネルギー相はワシントンで開催された第27回世界ガス会議に出席。会議の-marginでポンペオ米務長官及びペリー・同エネルギー長官と会談し、ワース・シェブロン会長及びウッズ・エクソンモービル会長等の表敬を受けた。カドゥール・ソナトラック社総裁も同行。同総裁は伊藤忠商事やヒュンダイ・エンジニアリングの担当者等とも面談。

5 日本との関係

●4日、小川大使はベンサラ国民評議会議長、24日にはベドゥイ内務・地方自治・国土整備相を表敬。それぞれの会談の様子を当地新聞各紙が報道。

<アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
6月3～4日	セネガル	ジェラブ商業相	第6回 AU 商業相会議に出席
6月6～7日	ポルトガル	ハメル警察庁長官	ポルトガル警察卓越章を受章
6月7日	デンマーク	メサヘル外相	北欧・アフリカ閣僚会合に出席。サムエルソン・デンマーク外相，ソイニ・フィンランド外相と会談。
6月18日	アゼルバイジャン	ミフビ文化相	「ナヒチェバン，イスラム文化首都2018」の開会式に出席
6月19～20日	ノルウェー	メサヘル外相	第16回オスロ・フォーラムに出席。ソーライデ・ノルウェー外相及びサラメ・リビア担当国連特使と会談
6月20～21日	米国	ハメル警察庁長官	第2回国連警察庁長官サミットに出席
6月20～23日	アゼルバイジャン	ルー法務・国璽相	マンマドフ法相と会談し，犯罪人引き渡しに関する協定に署名。アリエフ大統領を表敬
6月25～29日	米国	ギトウーニ・エネルギー相	第27回世界ガス会議に出席。ポンペオ米務長官及びペリー同エネルギー長官と会談。

<外国要人のアルジェリア訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
6月7日	英国	バート外務省中東担当閣外大臣	アヤディ外務次官と治安問題二国間戦略対話を共催。ベドゥイ内相を表敬
6月12日	フランス	デザニョー・リビア担当特使	メサヘル外相と会談
6月18～	AU	カベルカ高等代表	ラウイア財務相と会談

19日			
6月23～ 24日	国連	ケーラー西サハラ 担当国連事務総長 特使	メサヘル外相と会談。ウー ヤヒヤ首相表敬
6月26～ 27日	サウジアラビ ア	ブーネアン・ナーイ フ・アラブ安全保障 大学学長	ベドゥイ内務・地方自治・ 国土整備相及びルー法務・ 国璽相を表敬。治安分野に おける協力に関する枠組協 定の署名に合意
6月28日	米国	サリバン国務副長 官	第5回アルジェリア・米国 治安・テロ対策対話に出席。 ウーヤヒヤ首相と会談
6月30日	エジプト	マドブリー首相	トランジットのためアルジ エ空港着。ベドゥイ内務・ 地方自治・国土整備相及び ルー法務・国璽相が応接

(了)